

共通テーマ「北京オリンピック雑感」：北京オリンピック・16年ぶり出場の男子バレーボールについて

著者	吉田 康伸
出版者	法政大学体育・スポーツ研究センター
雑誌名	法政大学体育・スポーツ研究センター紀要 = The Research of Physical Education and Sports, Hosei University
巻	27
ページ	83-83
発行年	2009-03-31
URL	http://doi.org/10.15002/00007507

共通テーマ

「北京オリンピック雑感」

北京オリンピック・16年ぶり出場の男子バレーボールについて

吉田康伸(経営学部)

4年に1度開催されるオリンピックが、2008年の8月に北京で行われ、今回も水泳の北島選手や女子ソフトボールでの金メダルなど、メダル獲得者を中心に様々な盛り上がりを見せた。

全体的な印象としてはオリンピックが頂点の競技(ソフトボールや女子サッカーなど)はモチベーションが高いという意味で好結果を出したのに対し、そうではない競技(野球や男子サッカー、テニスなど)は結果を残すことが出来なかったという印象を持った。

その中で日本の団体競技では唯一男女揃って出場したバレーボールはオリンピックが頂点の競技であったが、結果は女子が5位(ベスト8)、男子が予選全敗の11位(最下位)という不本意な結果に終わってしまった。

バレーボールは6月に世界最終予選が日本で開催され、女子が全体の3位、男子が全体の2位で見事に出場権を勝ち取り、特に男子は最終予選を勝ち抜くことは難しいと言われていただけに、16年ぶりに出場ということも含め大きな盛り上がりを見せたが、オリンピック本選では上記の通り不本意な結果となってしまった。

敗因は細かい所を含めれば数多くあったであろうが、やはり今回の男子にとってはオリンピックに出場するということが最大の目標で達成感もあったためか、本選に備えての準備がしっかり出来ていなかったことに尽きるであろう。

オリンピック直前まで別の大会(ワールドリーグ)に出場していて、今回のオリンピックのみに使用されたボールでの練習が不十分であったことや、最終予選が終了した6月中旬から本選までの期間が約1ヵ月半しかなく、選手の疲れを取るための体のケアや所属チームでの壮行会行事などで十分な合宿期間を組むことが出来ていなかったと思われる。

今回出場した選手は歴代の代表と比較しても身体能力に優れたメンバー構成で、最終予選時における力を出し切っていたら、最低でも格下といわれていた中国やベネズエラには勝って5位には入れたはずである。

ただやはりオリンピックというものは4年に1度しかない大会であり、バレーボールに限らず、緊張感から日頃持っている力を出せなかったことや審判の微妙な判定など、どんなに実力があっても必ず勝てるというものではないのであろう。

そういった意味で今回男子バレーボールは12名中11名が初出場で、結果は残せなかったもののオリンピックという舞台を経験できたことは、大きな財産になったはずだ。

次回のロンドンオリンピックは今回予選に参加しなかった中国が出場することもあり、けっして楽に連続出場出来るものではないが、今回の悔しい結果を今後活かすためにも何とか連続出場を果たして、しっかりと実力を出し切った上で1勝以上はあげてもらいたいと願っている。